

# 都市政策と健康・福祉政策 の統合

広井良典(京都大学)

[hiroiyoshinori.5u@kyoto-u.ac.jp](mailto:hiroiyoshinori.5u@kyoto-u.ac.jp)

ジャパン・シンドローム？

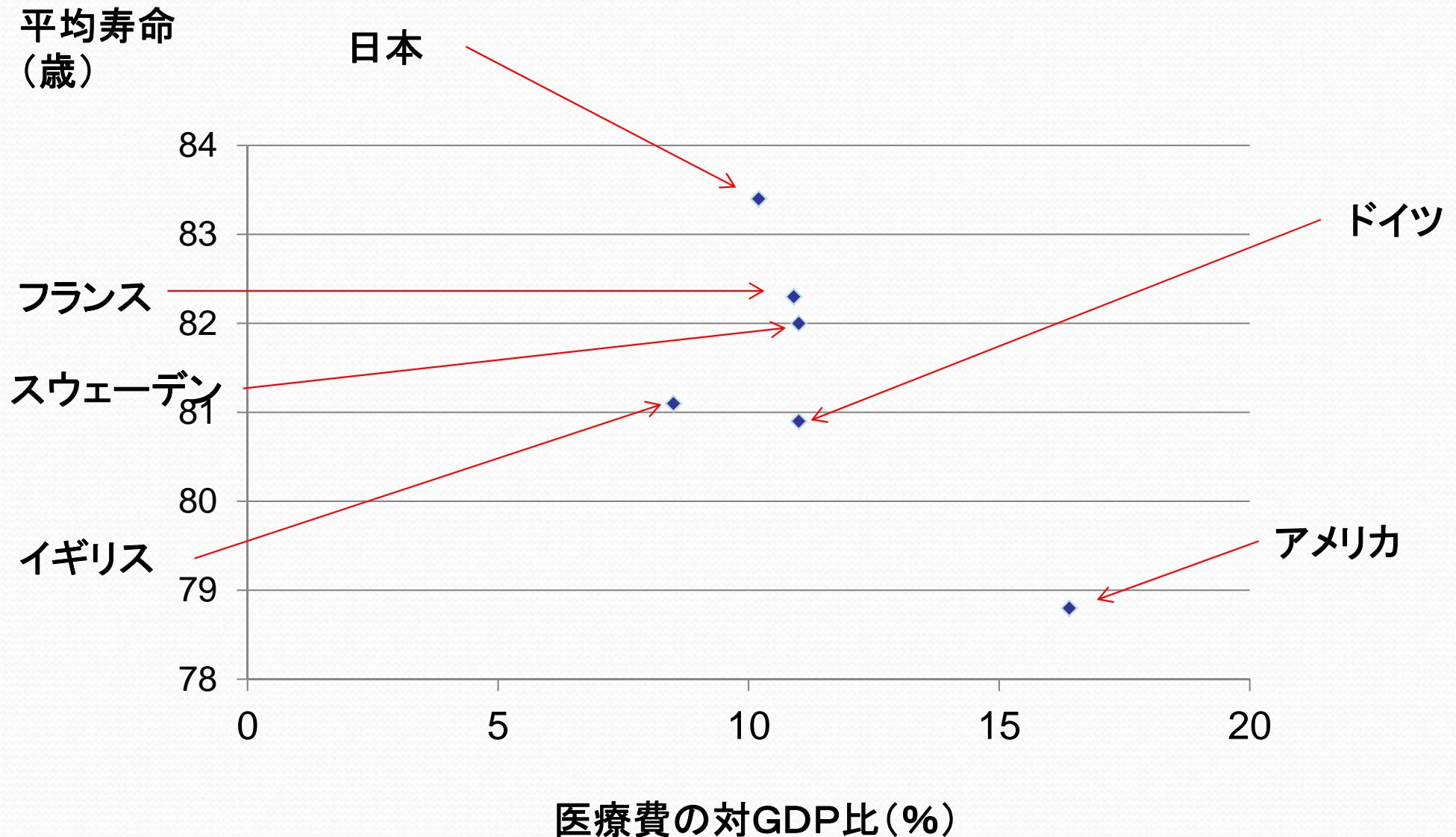
高齢化と人口減少

・・・危機かチャンスか——世界が注目



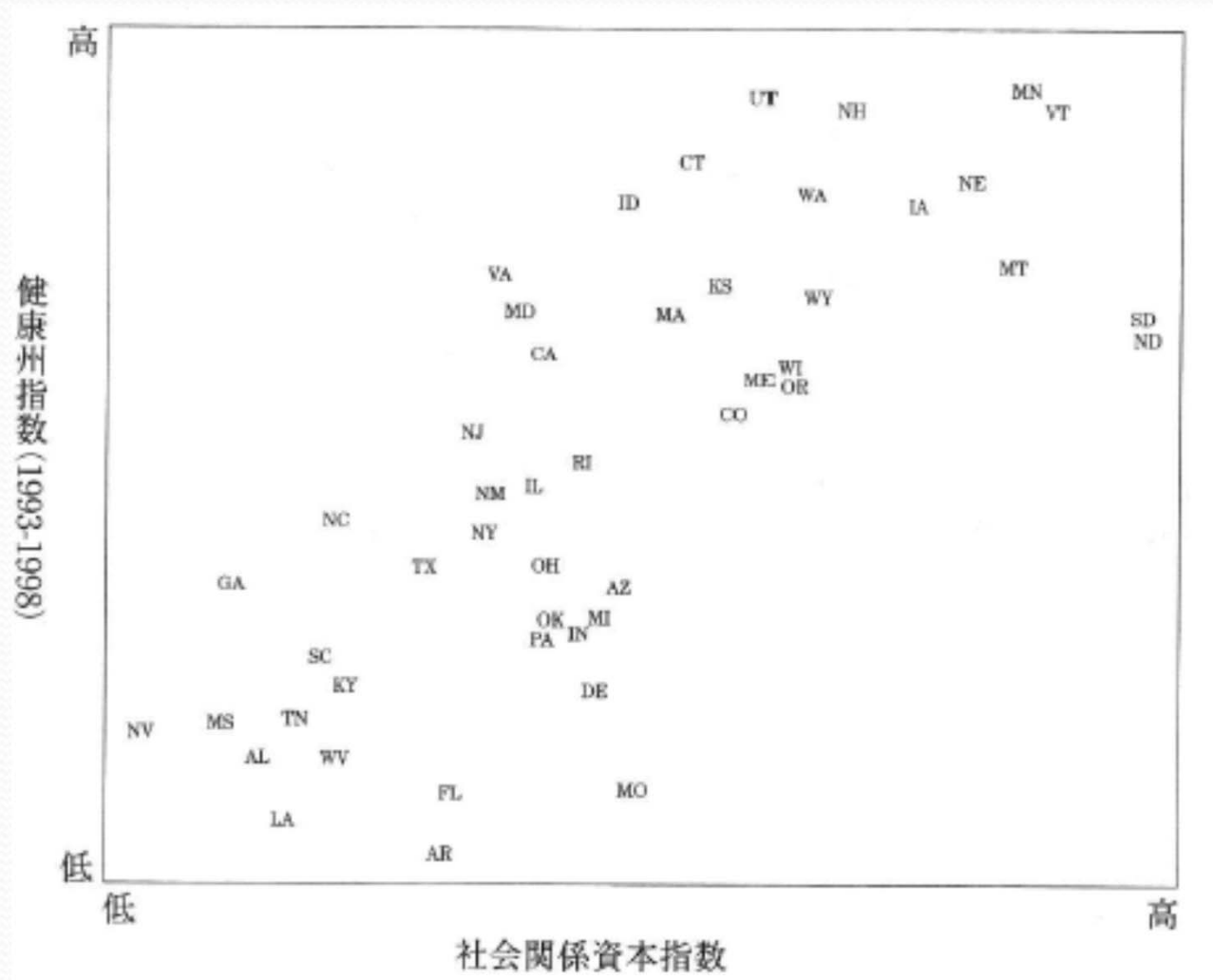
# 医療費の対GDP比と平均寿命の関係(国際比較)

・・・日本は相対的に低い医療費で長寿を実現



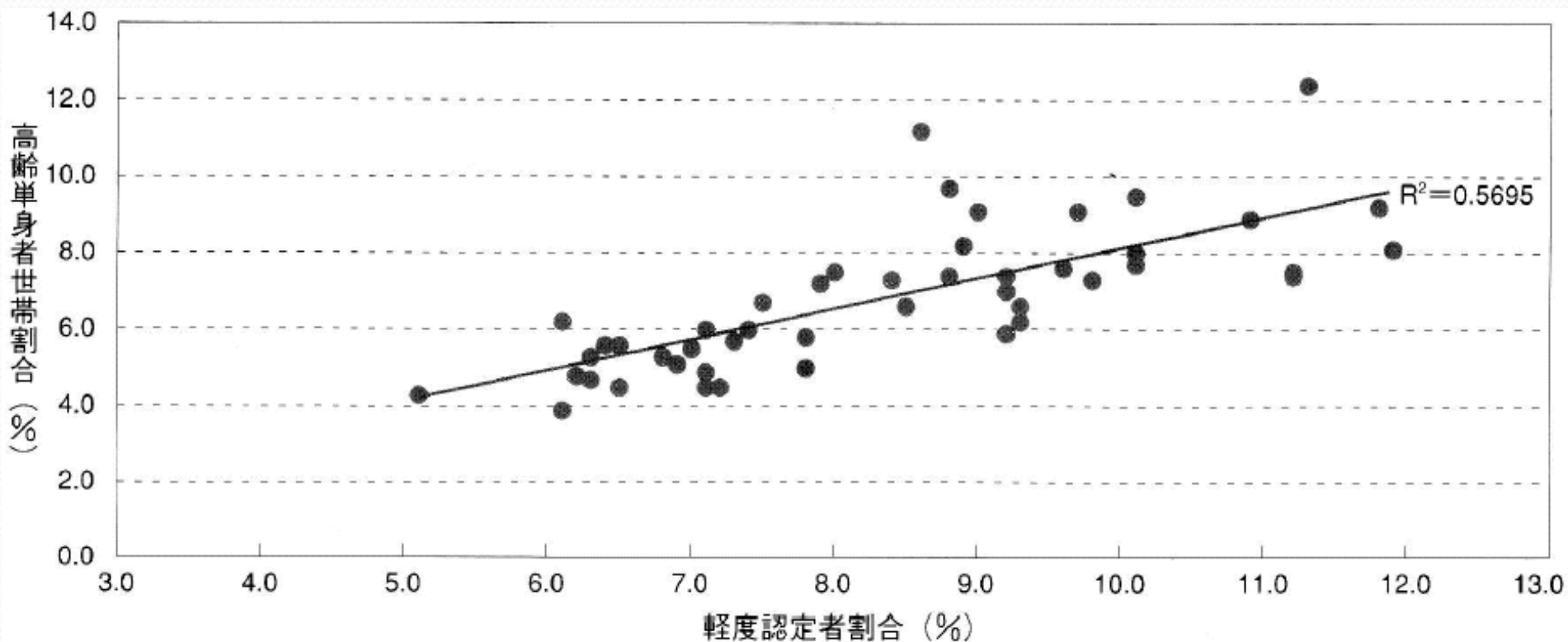
(注)いずれも2013年。OECD Health Statistics 2015より作成。

# ソーシャル・キャピタル (人と人とのつながりのあり方) と健康水準の相関 (アメリカ)



(出所)パットナム(2006)

# 高齢単身世帯割合と介護の軽度認定率の相関(都道府県別)

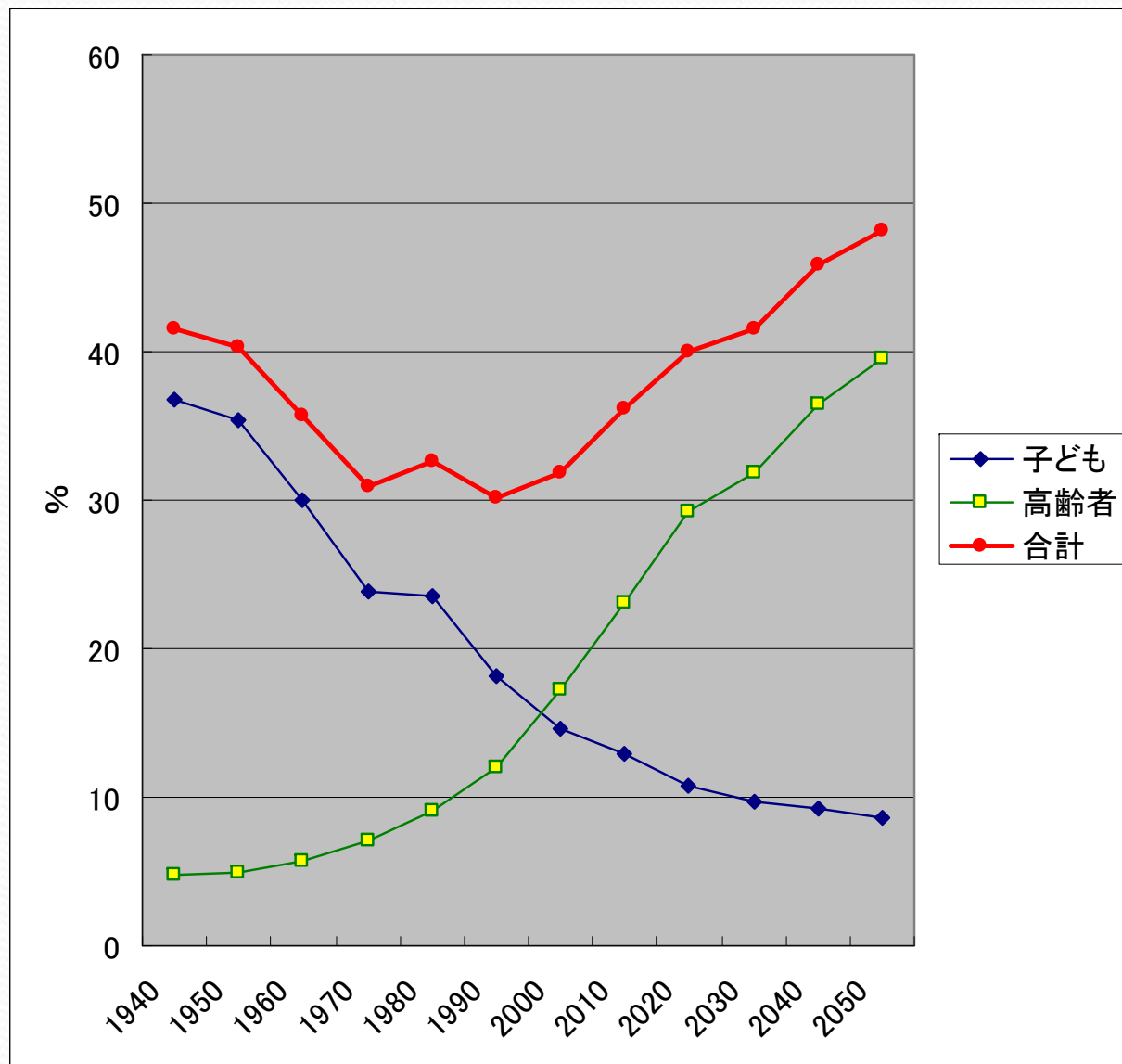


(注) 厚生労働省老健局「介護保険事業状況報告」及び総務省統計局「国勢調査」より厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成  
軽度認定者割合は2003年の値、高齡単身世帯割合は2000年の値

(出所)厚生労働白書平成17年版

# 「地域密着人口」の増加

人口全体に占める「子ども・高齢者」の割合の推移(1940-2050年)

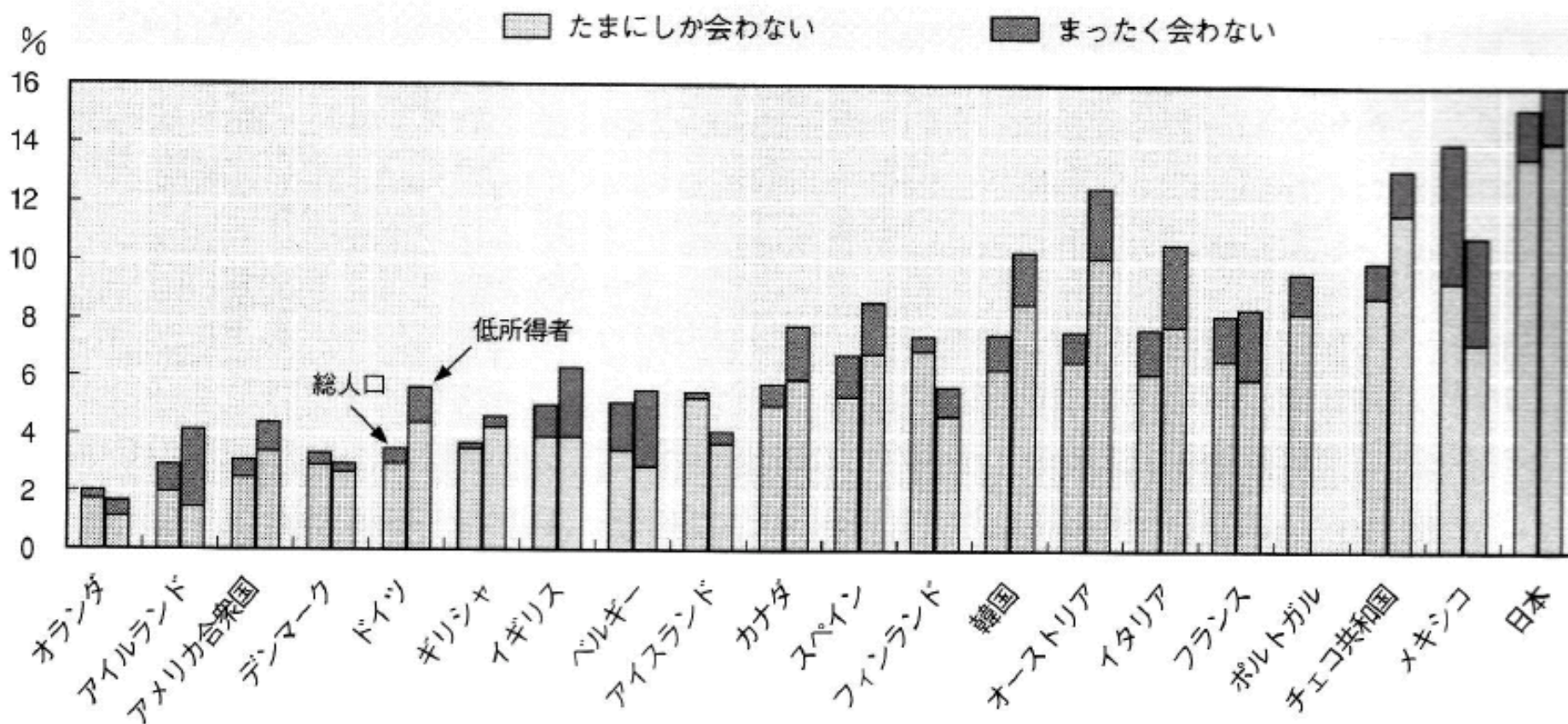


(注)子どもは15歳未満、高齢者は65歳以上。(出所)2000年までは国勢調査。2010年以降は「日本の将来推計人口」(平成18年12月推計)。

# 先進諸国における社会的孤立の状況

…日本はもっとも高。個人がばらばらで孤立した状況

図1.3 OECD加盟国における社会的孤立の状況 2001年



注：この主観的な孤立の測定は、社交のために友人、同僚または家族以外の者と、まったくあるいはごくたまにしか会わないと示した回答者の割合をいう。図における国の並びは社会的孤立の割合の昇順である。低所得者とは、回答者により報告された、所得分布下位3番目に位置するものである。

出典：World Values Survey, 2001.

# OECD 富山会議 (2014年10月):

## 「高齢社会におけるレジリエントな都市 (Resilient Cities in Ageing Societies)」

- 高齢化時代における都市像という新たなテーマ
- “買い物難民”等への対応(←自動車・道路中心の都市)
- 医療福祉機能の都市への取り込み・複合化
- 高齢者の孤独・孤立(loneliness)など心理的要素やコミュニティの重要性





# 中心部からの自動車排除と「歩いて楽しめる街」(フランクフルト)



# 中心部からの自動車排除と「歩いて楽しめる街」(エアランゲン[人口約10万人]) →街のにぎわいと活性化にも。



# 高齢者もゆっくり楽しめる 市場や空間(シュトゥットガルト)



# 典型的な日本の地方都市

## …道路中心の街と中心部の空洞化 (水戸駅南口)



改善を考えるべき例：

道路で分断された商店街や参道  
(千葉市稲毛区：せんげん通り)



# 香川県高松市：丸亀町商店街



- ・商店街と高齢者向け住宅等を一体的に整備し「福祉都市」的な性格をもつとともに、ヒト・モノ・カネが地域で循環する地域内経済循環を目指す。



# 視点と課題

- 日本の都市は、高度成長期を中心に圧倒的に「自動車中心」に作られてきた。 ← アメリカの都市をモデル
- “歩いて楽しめる街”は、本来は高齢化とは無関係に「都市」本来のあり方として実現されていくべきもの。
- しかし日本の場合は、高齢化への対応が社会全体の重要課題として認識される中、高齢化を契機ないしチャンスとして“歩行者中心の街”を実現していくべき。

# 視点と課題（続き）

- この場合、「**都市政策と福祉・健康政策の統合**」という発想が重要となる。
- “歩いて楽しめる街”がもたらす財政的効果（**医療費・介護費の節減等**）についてさらに立ち入った調査・分析が必要。